

北海道スモン患者のリハビリテーション方略 10 年間について

高橋 光彦 (日本医療大学保健医療学部)

乾 公美 (日本医療大学保健医療学部)

石橋 晃仁 (日本医療大学保健医療学部)

藤木 直人 (国立病院機構北海道医療センター)

研究要旨

平成 18 年から平成 28 年の 10 年間に北海道地区で行われたスモン検診のリハビリテーション受診した 13 名 (現平均年齢 83.2 ± 8.6 歳) を無作為に抽出し、各患者の 10 年分のリハビリ指導書の記載内容より、主訴、評価、対応方法について集約した。主訴は、10 年を前期、後期の各 5 年にまとめると、前期・後期では、関節痛の訴え 7 名・4 名、精神的喪失感の訴え 0 名・3 名、症状の悪化 4 名であった。10 年間で動作は、独歩 6 名が 4 名、1 本杖 4 名が 2 名、2 本杖 1 名が 1 名、車いす 1 名が 5 名であった。10 年間で移動動作が改善したのは 1 名のみで、他は徐々に低下していた。リハビリの介入は動作評価、筋力、関節可動域訓練、痙性抑制方法、歩行補助具の利用方法とメンテナンス、環境整備、運動方法、ストレッチ、リスクについて個別に継続して行ったが、転倒骨折、認知症、病状の悪化などの要因により、より移動動作が困難になった。13 名中 1 名のみが動作改善した。

A. 研究目的

北海道で実施されているスモン検診は、地区リーダーのもと、専門医師、地元医師、地区保健師、スモン基金、ボランティア、関係職種、北海道庁の協力の下に毎年実施されている。スモン患者の高齢化と共に、スモン患者数が減少し、道内の患者数は平成 18 年では 112 名が平成 28 年では 64 名となり半減している。スモン検診の中でリハビリテーション評価、相談、支援も連続して行われている。平成 18 年から平成 28 年までに行われた 10 年間のスモン検診において、リハビリを受けたスモン患者のうち 13 名の検診データから、主訴、移動方法、対応、経時変化について考察することを目的とする。

B. 研究方法

対象は平成 18 年から平成 28 年の 10 年間に北海道地区で行われたスモン検診でリハビリテーションを受けた北海道在住のスモン患者より、13 名 (現平均年

齢 83.2 ± 8.6 歳) を無作為に抽出した。各スモン患者の 10 年分のリハビリ指導書の記載内容より、主訴、評価、対応方法について集約する。

(倫理面への配慮)

本研究は日本医療大学倫理審査委員会により承認 (倫理 28-18) され、個別データは匿名化され、厳格に管理されている。

C. 結果

主訴は、10 年を前期、後期の各 5 年にまとめると、前期・後期では、肩・膝・股関節痛の訴え 7 名・4 名、配偶者・介護者が亡くなったなどの精神的喪失感の訴え 0 名・3 名、見えなくなった・痺れが強くなったなどの症状の悪化 4 名であった。10 年間で動作は、独歩 6 名が 4 名、1 本杖 4 名が 2 名、2 本杖 1 名が 1 名、車いす 1 名が 5 名であり移動能力が低下していった。

10 年間で移動動作が改善したのは 1 名のみであった。

リハビリテーションの介入は、日常生活の継続を目指し、動作評価、筋力、関節可動域訓練、痙性抑制方法、歩行補助具の利用方法とメンテナンス、環境整備、運動方法、ストレッチ、リスクについて継続して行った。

片側収縮力の差異，スモンに関する調査研究班・平成 25 年度総括・分担研究報告書，2014，pp 177-178

D. 考察

動作が困難になる要因には、関節痛に加え、骨折、認知症の発症が大きく作用し、また、配偶者や介助者の喪失により、施設入所など環境の変化による影響を受けやすい。一人暮らしを維持していくことに不安を感じながら毎日を送っている患者さんもいるため、安心した生活が送れる援助がさらに必要とされる。

E. 結論

スモン患者は加齢に伴い、転倒のリスクが高まり、家族関係の変化など、よりよい生活を維持するために身体的、精神的な支援がさらに必要とされる。

G. 研究発表

1. 学会発表

高橋光彦，西山徹，石橋晃仁，乾 公美，佐々木浩子．スモン患者に対するリハビリテーションの方略．第 87 回日本衛生学会学術総会．平成 29 年 3 月 28 日．宮崎．

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

- 1) 松本昭久・他：北海道地区のスモン検診の総括，スモンに関する調査研究班・平成 20～22 年度総合研究報告書，2012，pp 15-18.
- 2) 藤木直人・他：24 年度の北海道地区スモン検診結果，スモンに関する調査研究班・平成 24 年度総括・分担研究報告書，2013，pp 33-36.
- 3) 高橋光彦・他：スモン患者へのリハビリ支援，スモンに関する調査研究班・平成 24 年度総括・分担研究報告書，2013，pp 211-212.
- 4) 高橋光彦・他：スモン患者の膝屈伸における両側・